

福祉のしごと ふくしごと

誰もが住み慣れた地域で
安心して住み続けるために

福祉のしごとの魅力発信



●KAiGO PRiDE @ SETAGAYA

ポर्टレートモデルからのメッセージ

●データでみる世田谷

●有識者インタビュー

内多 勝康さん(もみじの家)

●若者の声

せたがや福社区民学会学生理事・実行委員

●異業種から見た福祉の仕事

けむさん(イラストレーター)



KAiGO PRiDE@SETAGAYA ポートレートモデルからのメッセージ

ポートレートモデルの方々から介護のしごとについたきかけ・しごとの魅力・やりがいについて語っていただきました。皆さん、世田谷で活躍している介護職の方々です。



マンジョット・ベディ氏
クリエイティブディレクター
カメラマン

歳を取らない人はいない中で、一番大切なのはどうすれば最期まで自分らしく生きられるか、それを自分ごととして考えた時、介護の課題にクリエイティブの経験を通してできることが見えてきました。介護職のセルフリスペクト（自己尊敬）を社会のリスペクトにつなげ、ネガティブなイメージをポジティブにシフトさせることで介護人材不足の課題に応えます。

今、最前線で活躍する一人ひとりが誇りと自信をもって働く環境になれば、誇りにあふれ、人材の参入も増えていくはずです。今後もクリエイティブの力で介護をリデザインし、選ばれる仕事にしていきます。

皆さんの「やさしさ」を
ふんだんに使ってみませんか

成田和代



ケアプラン駒沢

親の勧めで、訪問看護師を始めて23年。大変なこともありませんが、一度も辞めたいと思うことなく毎日楽しく仕事をしています。一人ひとり違う価値観や思い、状態が変化し揺れ動いたり、その時々のお気持ちや生き方に向き合いサポートしています。何気ない会話で笑顔が見られ、介護に自信のないご家族が「わたしにもオムツ交換ができた!」と一緒に喜べることを嬉しく思います。

國居早苗



桜新町ナースクエア・ステーション

介護業界は信頼関係が大事です。約束は必ず守る。どうにもならない時は助け

福祉用具専門相談員で、人生の先輩方から話を伺いし、適切な用具の選定、提案を行っています。出会いの連続で、人に感謝されやりがいを感じています。感謝のお手紙には大変励まされます。

本田 亘



フランスベッドメディカル

か。「やさしい気持ちの出し方がわからない方」この世界に飛び込んでみませんか。全く別の業界にいた私が、この業界に飛び込んだ時に感じ、今も感じていることは「この業界、やさしい人たちが集まっている」という事です。宮城まり子さんの「やさしくね やさしくね やさしいことばつよいのよ」という言葉を座右の銘としています。

矢野弘枝



博水の郷

年齢に関係なくキャリアアップでき、施設や訪問等様々な働き方が選択できます。人の役に立ち感謝されることが多くやりがいを感じます。薬局の受付で働いていた時、東京都の介護職員就業促進事業を利用し、学びなおし転職しました。「その人らしさ」を大切に、常になぜ?を追求しています。介護の仕事はカッコいいと思うので、価値を上げていきたい。

大山 恵



クウの翼ケア

てくださいと言ってもらえん。必ず誰かが手を差し伸べてくれます。

ヘルパーで伺った時に全て拒否されたショックが大きき、働きながら専門学校に通い、介護福祉士を取得しました。全てが人とのつながりであり、ご利用者、ご家族、地域の方々から頂く感謝の言葉と笑顔が喜び、やりがいで、仕事後のビールが美味しいです。ICT化が進んでも、最後は人です。究極のサービスの介護の世界と一緒にサービスコンシェルジュを目指しましょう。



アンキパレフィテラハリヤンディ・
デノックアリシントラロサリナ
等々力の家

(アンキ) インドネシアにいた頃から、日本の福祉の質の高さに魅力を感じていました。ご利用者を自分の親と思って温かいケアをすれば、自分自身の気持ちも豊かになるお仕事だと思っています。

(デノック) 祖父が亡くなっ

たときに、何もしてあげられなかったと後悔しました。日本で福祉の仕事を学び、いつかインドネシアに帰国した時には、家族や周りの人の役に立ちたいと思っています。毎日「ありがとう」という言葉を言ったり、言われたりする幸せな仕事だと思つてご利用者と関わることで、自分自身が人として成長できる仕事です。つらい事も仲間と支え合えます。難しく考えず、「人と関わるのが好き」な方、ぜひ、いらっしゃいませ！一緒に働けることを楽しみにしています!!

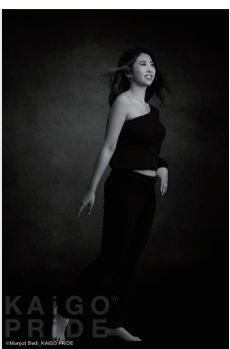


鹿島雄志・鹿島美恵子
りほいこ

(雄志) 病院・老健でリハ職をしていた時、ケアマネジャーに在宅生活の支援を強く勧められ、在宅支援に興味を湧いて起業しました。前向きに働く人がとて

も多く、人との関りを大切にしていきます。自分に余裕がないと人に優しくできません。心の安定を保つことが大切です。経験を大切に、常にゼロベースで物事を見ること、お互い様のお蔭様という言葉を大切にしています。

(美恵子) 福祉の仕事の一番の魅力は、現場で「ありがとう」という言葉を沢山耳にすることができるところです。また、様々な年代や職種の方と一緒に喜んだり悩んだりしながら過ごす中で、自分自身を振り返り、成長する機会を得やすい点も良いところだと思います。決して楽な仕事ではありませんが、是非多くの方に携わって頂きたいと願っています。



宇田川夏実

エリザベート成城

介護の仕事の魅力は、日々の業務で得られる知識や技術・経験を、大切な人

が介護を必要とした時に活かすことができる点です。利用者の日々の小さな変化に気付く観察眼と、その方にとってより良いケアを検討・提供する力、命を預かる仕事という責任感が身に付きます。介護・福祉が必要となってからではなく、自身のスキルとして習得できるのは強みであり、魅力の一つだと思います。



並木裕太郎

芦花ホーム

祖父の在宅介護で介護職の素晴らしさを目の当たりにし営業マンから介護職に転職しました。介護の仕事は、右から左へ物が流れる数字の世界では見られないかけがえのない仕事です。専門学校で学び介護福祉士の資格を得、特養に入職し、毎日

が大変充実した学びの日々です。今日も特養で介護をしています。今日も笑顔に

なれる場所だと思えます。



齋藤光

久我山園

需要があり資格も取れ人生に役立つ仕事と思い、異業種から転職しました。沢山の利用者様との出会いがあり、それぞれの生きて来た環境を理解し信頼関係を築く、その過程にやりがいを感じます。人生の最期を任せてもらえる尊い仕事です。大変な事も多いですが、それに勝る魅力ある仕事なので続けられています。自分に合った良い環境の職場に出会って仕事を好きになつてもらいたいです。



金沢治哲

チークケア世田谷

ご利用者やご家族の方々

のお役に立てればと思います、介護の仕事を選びました。ご利用者は自分が想像していたよりも、ご自身の意志を伝え、ご自身の力で行動をされる事を学びました。スタッフには、自分や自分の家族が介護を必要とした時に、来て欲しいと思われ、常日頃から伝えてい



ホアン・トゥ・ハー・グエン・ティ・ハイ・イエン
世田谷希望丘ホーム

ます。 (ハー) 中学生の頃におじいさんの介護をした事があり、高校を卒業し日本に留学して、日本語と介護を学びました。介護福祉士にも合格し、介護の仕事をして

ますよ。 体験してみると良いと思います。 (ハー) 中学生の頃におじいさんの介護をした事があり、高校を卒業し日本に留学して、日本語と介護を学びました。介護福祉士にも合格し、介護の仕事をして



高杉 貴志子
クワの翼介護サービス

す。これから福祉の仕事を目指す方にやさしい心を原点にすることで大変なことがあっても対応できると伝えたいと思います。



濱崎 佳乃・菅谷 孝江
ウエリナ

頂くと、人様に笑顔になって貰え、やりがいを感じられるようになりました。いつも利用者様に寄り添い、何が一番良いかを常に考えプランを立てています。介護職にイメージ革命が起きる事に期待しています。



板垣 穂子
砧ホーム

「介護の仕事はきつい」と言うイメージがあるかもしれない。実際に「しんどいなあ」と思うことはあります。利用者様やご家族との一期一会を大切に、施設での生活を楽しく過ごし「笑顔」でいられるよう支援に努めています。施設では様々な取組みを行っているので、興味がある方は、一度見学して実際の職場を

きっかけは近所の小さなデイサービスでした。50歳少し前、このまま年を取るのとはつまらないと思い、介護と無縁の生活でしたが、その日から「何か」が変わり、数年後には人生のお土産位の気持ちで、介護福祉士にチャレンジ。そして今、ケアマネジャーとして走り回っています。「何か」が変わったあの日から、たくさんの出会いや触れ合いに励まされ、力を頂いています。介護に携わったからこそ得られた人と人との尊い触れ合いこそが、かけがえのない財産だと思いが、今日も走ります。

(濱崎) 介護保険制度が始まり、長く働ける仕事だと思いはじめました。「ありがとう、あなたが来てくれると嬉しい」と言われ嬉しくなります。人生の大先輩から学ぶ事もたくさんあります。専門職として、問題の解決、希望が持てる支援、自立支援を提供することで、元気になったり、望みが叶ったり、その人らしく生活が送れた時は、私も最高に嬉しくなり、やりがいを感じます。この仕事に就いて本当に良かったと思います。

(室井) 小学生の時、祖母が在宅介護を受けているのを見て、介護という仕事に興味を持ちました。進学する時にそのことを思い出し、介護職の需要もあると思いい、介護の専門学校に入りました。入居者の笑顔や、ご家族からの感謝の言葉、ご入居者とのコミュニケーションを学べます。介護のイメージは、大変・きついなどあると思いますが、それだけでなく沢山のやりがいや楽しさもあります。



室井 陽介・土屋 美紀
喜多見ホーム

「介護の仕事はきつい」と言うイメージがあるかもしれない。実際に「しんどいなあ」と思うことはあります。利用者様やご家族との一期一会を大切に、施設での生活を楽しく過ごし「笑顔」でいられるよう支援に努めています。施設では様々な取組みを行っているので、興味がある方は、一度見学して実際の職場を

きっかけは近所の小さなデイサービスでした。50歳少し前、このまま年を取るのとはつまらないと思い、介護と無縁の生活でしたが、その日から「何か」が変わり、数年後には人生のお土産位の気持ちで、介護福祉士にチャレンジ。そして今、ケアマネジャーとして走り回っています。「何か」が変わったあの日から、たくさんの出会いや触れ合いに励まされ、力を頂いています。介護に携わったからこそ得られた人と人との尊い触れ合いこそが、かけがえのない財産だと思いが、今日も走ります。

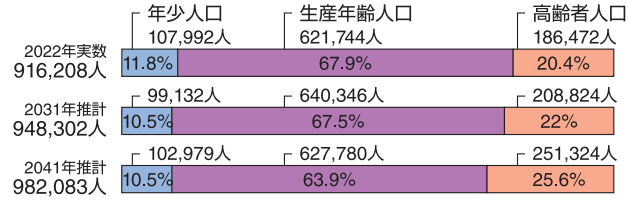
(菅谷) 母の介護がきっかけです。色々な職業をご経験された方がおられ、専門的な事が学べ、人様を元氣(笑顔)に出来るところが魅力です。きついイメージがありました。働かせて

頂くと、人様に笑顔になって貰え、やりがいを感じられるようになりました。いつも利用者様に寄り添い、何が一番良いかを常に考えプランを立てています。介護職にイメージ革命が起きる事に期待しています。

データでみる世田谷

世田谷区の概要

● 年齢階層別人口 (各年1月1日)



● 年少人口は緩やかな減少傾向が続き、2032年以降は出生数の回復により、緩やかな増加傾向となる見込み。生産年齢人口は、微増傾向が続くが、2032年以降、減少傾向に転じる。高齢者人口は、増加傾向が続き2041年には25.6%となる。

福祉人材に関する世田谷区福祉事業所調査 概要

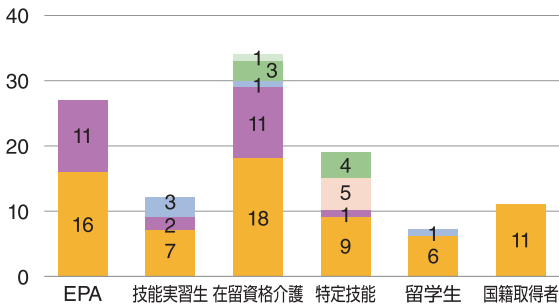
- 調査期間：令和3年12月27日～令和4年2月10日
- 調査項目：職員数、介護ロボット・ICT使用状況、腰痛予防策、人材確保策、外国人在籍状況 等
- 配付事業所数：1,472事業所 (高齢：1,101事業所 障害：371事業所)
- 回答事業所数：448事業所 (高齢：306事業所 障害：142事業所)
- 回収率：30.4% (高齢：27.8% 障害：38.3%) ● 回答数：345件 (高齢：251件 障害：94件)

□ 介護ロボット利用状況

	睡眠センサー	見守りセンサー	睡眠+見守りセンサー	排泄センサー	移乗・移動センサー	移乗アシスト	コミュニケーションロボット
導入事業所数	20	27	8	2	30	14	3
活用している	20	25		2	23	5	1
活用できていない		2			2	7	2
利用者・職員両者に効果	14	17		1	8	4	1
利用者に効果		4			2		
職員に効果	4	2				1	
効果なし	1	2			2		2
未回答	1	2		1		2	
特養ホーム	14	12	7	2	12	7	2
老健	1	1	1		1	1	
(看護)小規模多機能	1	2			1	1	
特定施設入居者	2	2			1		
グループホーム	2	4				1	
訪問・通所系		6			8	2	1
障害者(重度訪問/生活介護)					4	1	

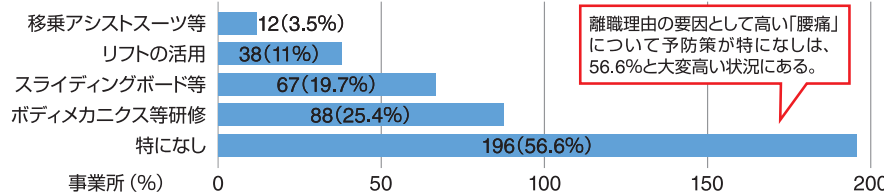
● 介護ロボットの導入は、特別養護老人ホームが中心となっている。昨年度より見守りセンサー (9施設→12施設)、移乗アシストスーツ (4施設→7施設) が増えている。

□ 特別養護老人ホームの外国人材在籍者



● 27特養のうち外国人材が在籍している施設は19施設110人、前年度の18施設92人より増えている。

「腰痛予防策」の実施状況 345 事業所



離職理由の要因として高い「腰痛」について予防策が特になしは、56.6%と大変高い状況にある。

- 介護職員の離職理由の多くが「腰痛」と言われる中、事業所の腰痛予防策は、57%が「特になし」。各職場に適した福祉用具・機器を積極的に導入していく必要がある。
- 介護負担軽減、利用者の介護に伴う痛みも軽減され、スライディングボードやスライディングシートの導入は20%以下で、訪問系では20か所(5.5%)と少ない。在宅で「利用者の理解が得られない」との声もあるため、導入の働きかけ(啓発)が必要。
- 他に「訪問リハビリの利用」「移乗等の研修」「腰痛ベルト着用」「体操の奨励」「シフトの調整」など、各々1事業所が予防策として挙げている。

(土屋) 祖母の足腰が悪くなったのがきっかけで介護という仕事を意識しました。ご利用者は日々変化しており、そこに気づき対応することの難しさ、やりがいを感じています。また、施設行事では企画、準備の

大変さもありますが、利用者と一緒に楽しむことができ、普段見られない表情をさせていただいた際は嬉しく思います。直接、感謝の言葉をいただくことが多いです。やりがいのある仕事で

両親が歳をとったとき、



フイティフェン

芦花ホーム

自分で世話をしたいと思いい、高齢者や病気の時の対応、支援技術などを深く学びたいと思い、介護の仕事を選びました。私はご利用者様とのかわりが好きで、毎日楽しく元気で穏やかに過ごされている姿を見

ると安心します。信頼関係を作れるようになり、とても嬉しいです。「心からご利用者様を愛し、お世話をしてください。自分自身が楽しく、嬉しいと感じられると仕事もうまく進めることができます。」

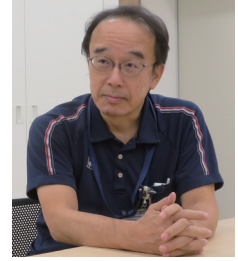
NHK 在職時に社会福祉士資格を取得し転職された内多勝康さんに、仕事への想いややりがい、これからの夢など伺いました。



NHKアナウンサーからの転身 ～ソーシャルアクションの実現～

内多 勝康 氏

国立成育医療研究センター「もみじの家」ハウスマネジャー
インタビュー：福祉人材育成・研修センター長 瓜生 律子



瓜生…転職のきっかけは？

内多…「クローズアップ現代」で、医療的ケア児と家族の厳しい現実を取材し、継続的に取り組みたいと思いましたが、現実には難しく、諦めていたところ、もみじの家の話をいただきました。もみじの家は重い病気や障害のある子どもと家族がその人らしく生きることが

できる社会をつくるための新しい支援の仕組みを研究・開発して全国に広めるという理念とミッションがあり、ソーシャルアクションを仕事としてできるのですごくわくわくし、やりがいを感じました。新しい医療的ケア児の施設をこれから自分たちの創意工夫で、自由な発想で創りあげていくのは魅力的でした。

瓜生…開設当初のご苦労は？

内多…当初は赤字が大きく、寄付の呼びかけや行政への補助金の要望など何でもやりました。地元の世田谷区だけでなく、川崎市と横浜市も補助金制度を創設してくれたことには感動しました。

年々赤字は圧縮でき、収支が均衡に向かいかけたと思ったところにコロナ禍で、利用人数が落ち、

赤字が倍増しました。早くコロナが収まり、家族一緒の宿泊を再開したいですね。

看護師や保育士もいて、隣に病院があり、ご家族は安心して子どもを預けられます。もみじの家のような施設を増やすことが新たなミッションです。

医療的ケア児を支える制度ができ法律も成立しました。僕がこの業界に来て6年余りですが、医師、関係者の方々が寝食を忘れ、地道に取り組んだお陰というのがよく分かります。病院、もみじの家、マクドナルドハウスの3点セットが都道府県に1か所、当たり前にあって、家族は時々そこで休息でき、安心感の中で暮らせる。第2、第3のもみじの家ができれば、もう最高ですね。

医療的ケア児の存在は、そういう地域の環境や社会的な受け皿の必要性を我々に教えてくれました。医療と福祉が同時に提供されるサービスを求める、医療的ケア児たちのメッセージですね。あの子たちが社会を動かしていると言っても、過言ではありません。法律までできたのですから。社会

が望ましい方向に進んでいると思える。幸せを求めて、インクルーシブな社会に向かっていく。

医療的ケア児が安心して暮らせる国は、世界的に見てもないと思います。日本が医療的ケア児支援法を遵守することができれば、世界に誇る福祉国家になることも可能になります。そうすると子どもたちも自然と愛国心が芽生え、素晴らしい国になると思います。だから、「一生懸命にこの仕事をやりたい！」と思います。

瓜生…仕事を始める方へのメッセージをお願いします。

内多…それぞれの現場でソーシャルアクションを起こして、社会を動かしていく。そのためには、困難を抱えている人たちの課題をどう解決していくか、支援の仕組みをどう作っていくか、そういう視点を持つことが大切だと思います。

全てのライフステージにわたって課題を解決していく視点が大事で、人生をプラスの方向に変える大きな推進力になると信じています。



内多 勝康 (うちだ かつやす) 氏 1963年東京都生まれ。東京大学教育学部卒業後、アナウンサーとしてNHKに入局。高松・大阪・東京・名古屋・東京・仙台局を経て2016年退職。同年4月より「もみじの家」ハウスマネジャー。著書に『「医療的ケア」の必要な子どもたち第二の人生を歩む元NHKアナウンサーの奮闘記』（ミネルヴァ書房）、『53歳の新人—NHKアナウンサーだった僕の転職—』（新潮社）。

※ソーシャルアクション：サービスや制度がない場合、自ら働きかけてつくる活動

※マクドナルドハウス：病気と闘う子どもとその家族のための滞在施設



もみじの家ホームページ

せたがや福祉区民学会第14回大会「みんなで守るいのちとくらし」をテーマに学生理事・実行委員を中心にワークショップを開催しました。14回大会やワークショップに携わった感想を伺いました。

佐藤 貴緒(昭和女子大学)理事

他大学の学生と意見交換ができ、貴重な経験となりました。学ぶ領域が異なっているからこそ得られる視点があり、面白かったです。

橋爪 壮野(駒澤大学)

川上先生の講義で日頃からの防災意識について振り返る機会がありました。改めて様々な意見交流は有意義な時間でした。

成嶋 セルジオ正章(日本大学文理学部)理事

今回3年ぶりの対面での区民学会やワークショップだった為、実際に他大学の学生さんと関わる事が出来とても有意義な時間となりました。

後藤 郁泉(昭和女子大学)

自分の意見や質問が大変言いやすい雰囲気があり、発言しやすかったです。また、色々な視点を得られました。

小澤 保菜美(日本大学文理学部)

他の方と協力し繋がることで楽しくなりました。これから周りの方との繋がりを大事にしていきたいと思いました。



瀧上 凜花(東京都市大学)

「防災」について意見交換ができ考える機会となりました。幼少期から「防災」の意識を持てるよう、新年度から幼稚園教員として伝えたいと思います。

吉田 ゆみ(東京都市大学)

いろいろな方の考えや視点を体験できました。新年度から区の福祉職員としてこの経験を生かし、住民や職員同士をつなげられる人になりたいと思います。

蛭間 晃雅(東京都市大学)

ワークショップに携わり、つながりの大切さを改めて深く理解できました。自分とは異なる意見を聞くことができ、とても勉強になりました。

笹木 優太(東京都市大学)

福祉についてのグループワーク等を通し、意見を共有できたのと同時に自分自身もとても勉強になりました。

浅井 舞香(日本体育大学)

様々な分野において専門的に学ばれている方々と意見交換することができ、考えが深まり、貴重な機会となりました。

原田 豊望佳(日本体育大学)

様々な方と意見交換でき、今の社会では何が必要なのかを改めて実感することができました。貴重な経験となりました。

石川 歩佳(東京農業大学)

学会で他大学の学生さんと関わる中で、様々な視点からの意見を聞き、福祉・防災への理解を深めることができました。

仲村 美咲(東京農業大学)

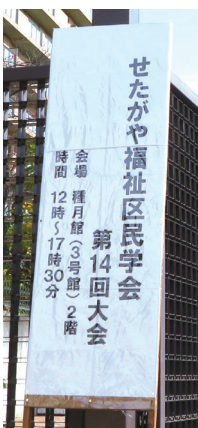
地域の人々とのつながりについて話し合った際に、各大学が地域に向けて行っている取り組みについて知る事ができた事が良かったです。

久保 涼夏(日本女子体育大学)

自分のやるべきことなど、出来ることを見つけて動いていきたいと思いました。

山地 里奈(日本女子体育大学)

ワークショップで他の方の意見を聞き、自分とは違った視点があり貴重な経験となりました。防災について考え直すきっかけとなりました。



(会場) 駒澤大学駒沢キャンパス

異業種から見た
福祉の仕事

優しいタッチのイラストに癒されます。丁寧な取材で福祉の世界を発信いただいているけむさんからメッセージをいただきました。

心に寄り添う絵を描きたい イラストレーター けむ



私は大学時代、知的障害のあるお子さんたちと公園で遊ぶ活動をしていました。その頃の友人の声かけで、2021年にスタートした世田谷区医療的ケア相談支援センターのPR動画やリーフレットを作らせて頂いたのが、福祉に関する仕事の始まりでした。センター長の内多さんのおすすめで、その後もたくさんの医療的ケアを必要とするお子さんやご家族と知り合うことができ、取材をしながらシリーズまんがを描かせて頂いています。その出会いのひとつひとつが人生の宝物です。



取材でご家族にお話をうかがっていると、さまざまな感情が（慈しみ、喜び、孤独、ときには社会に対する憤りなども）伝わってきます。その在り方は個性があり多様であり、障害者のご家族だからというのではなく、人としての個性なのだと感じます。学生時代の活動や自分の子育ての経験も重ね合わせながら、全てを理解できるとはとても言えませんが深い親近感をおぼえることが多くあり、ケアをする人の心に寄り添うことの大切さをしみじみ感じます。

世田谷区福祉人材育成・研修センターの皆さんと最初に作った「事例MANGAで学ぶよりよいケアの実践」では、介護技術だけではなく介護をする人へのサポートにも焦点が当てられていることに共感しながら、介護職の友人やセンターの方々の経験談をたくさん盛り込んで描きました。

スタッフがいつも笑顔で、困難なテーマも笑いとお話くださること、まずはやってみよう！という前向きな明るさに満ちていることに私も感化され、最新の「腰痛を予防しよう！福祉用具活用のススメ」リーフレットは、とても面白いものに仕上がっています！



私が描くイラストレーションを見た瞬間、皆さんの表情がゆるみ、ニッコリほほえんでくださるのが何よりも嬉しいです。絵には張りつめたものをほどこき、流れを変える力があると信じて、これからも人の心を幸せにする作品を描いていきたいと思えます。



ひいらぎ舎ホームページ

けむ(イラストレーション制作ひいらぎ舎代表、イラストレーター)。愛知県出身石川県育ち。現在神奈川県在住。5歳から新聞に入ってくるチラシのウラにまんがを描き始める。趣味は朗読と音楽(ピアノ、歌、作曲)。動画制作の場合ナレーションとBGMも自前です！ホームページをごらんください。

世田谷区福祉人材育成・研修センター

研修センターは、福祉人材の確保・育成・定着支援を総合的に推進しています。福祉の仕事の入門講座やキャリアアップなどのさまざまな相談、専門性を高める研修も行っています。福祉の仕事のご相談は、研修センターへお寄せください。



社会福祉法人 世田谷区社会福祉事業団
世田谷区福祉人材育成・研修センター

〒156-0043 東京都世田谷区松原 6-37-10
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1階
電話 03-6379-4280 FAX 03-6379-4281
URL <http://www.setagaya-jinzai.jp>
受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15

アクセス 小田急線「梅ヶ丘」駅北口 徒歩 5分
小田急線「豪徳寺」駅 徒歩 8分
東急世田谷線「山下」駅 徒歩 14分
小田急バス「松原」 徒歩 1分

